

# 社友会だより

第 17 号

発行 センツウ社友会  
住所 東京都港区赤坂 2-4-5  
〒107-0052 (国際赤坂ビル 3F)  
ドコモ・センツウ株式会社社内  
編集者 大場省平

## ＊ 役員会の開催 ＊

- 日時 平成 20 年 1 月 31 日 (木) 18:00～
- 場所 国際赤坂ビル 会議室
- 議事等
  - 会長から、今後の会の運営に反映させるためアンケート等により会員からの意見を聴いてみたい旨の提案があった。  
(報告事項)
  - ・長谷川事務局長から次の通り報告があった。  
会員の状況  
会員数 197 名となった。また、3 月末での定年退職者が 14 名おり、入会勧誘について、引続き積極的に行う。
  - ・総会日程  
7 月 19 日 (土) にて調整したい。
  - ・〈 議事 〉  
会長から社友会が発足し 20 年となるが、社友会の更なる発展のため、会員からのアンケート調査を実施する。
    - アンケート内容について意見を協議、後日事務局長が取りまとめることとなった。
    - 退職者に対する入会勧奨を実施する。
    - 社友会役員への勧奨を実施する。
    - その他

## ＊ 関西地区 OB 会(第 4 回)開催 ＊

関西地区の OB 懇親会も、今年で 4 回目となりました。

例年 1 月に開催していましたが、今年は少しでも日が長くなる 2 月にしようということで 2 月 17 日 (日) に恒例の神戸三ノ宮の神戸交通センタービル「燦」で開催しました。



今回は地域ごとに連絡を担当していただく方をお願いして参加者の取り纏めを行い、26 名の出席でした。

高島社友会副会長と関東から特別に参加頂いた今井さんの挨拶、田村さんの乾杯の音頭で懇親会が始



まりました。三ノ宮の街並み、六甲山系の山並みを見渡せる会場ですが、途中雪がチラつき一時六甲山の山並みが見えなくな

るような天候でしたが、ほとんどの方が 1 年ぶりの再会ということで昔話、近況に盛り上がっていました。

これからも OB 親睦会の他、気楽に参加できるイベントも開催できればと思っています。



いつも幹事長を務めていただいている三野さん、中部地区を纏めていただいた本田さん、岡山地区の三沢さん、ありがとうございました。

[レポート村上功さん]

## ＊ 我が家の骨董 ＊

我が家の骨董を紹介いたします。

[金重 寛さん]

### 1. 骨董品収集の始まり

骨董品の収集を始めたのは私の祖父[金重金蔵(1878～1938)60歳で没]で、昭和初期から収集を始め年に一度博多に鑑定団が来た時に小倉から汽車に

乗り父[金重辰雄（1906～1980）74歳で没]と一緒に  
出掛けては、鑑定してもらっていたようだ。（現在の  
何でも鑑定団のようなもの）

鑑定は昭和11年6月と12年6月の2回で終わっ  
ているが、鑑定されたものは全部で16点、現存する  
ものは15点で、鑑定模様は当時の芸術雑誌「日本の  
芸術」（両年とも雑誌は現存）に詳しく掲載されてい  
る。今も次期鑑定を待っていたと思われるものが数  
点残っている。

以後世相は厳しくなり、戦争へと向かい始め、収  
集は父に継承されることはなかった。

## 2. 我が家の骨董品

### ○楽焼

京都の楽（吉左衛門）窯の陶器。手づくねの軟陶  
で黒・赤の二種類があり抹茶茶碗を主とする。

天声年間（1573～1592）に始まり、最初は聚楽第  
で焼かれていたので聚楽焼といわれ、代々楽の印を  
押したので楽焼と呼ばれる。元祖は帰化人の「あや  
め」（飴他）で、その子が初代の長次郎（1516～1592）  
だが、千利休の指導で喫茶に最適な楽茶碗を工夫し  
た。長次郎の茶碗で最も有名なものは、千利休（好  
み）七種（または長次郎七種）で、すなわち黒では、  
大黒・東陽坊・鉢開、赤では、早船・木守・臨濟・  
検校の七碗だけである。このうち現存するのは、大  
黒・東陽坊・鉢開・早船（いずれも重文）の三碗だ  
けである。長次郎の特色は気品のあることで、す  
べて無印である。

二代は常慶（1599～1635）、名は吉左衛門で、以後  
これが通称となっている。常慶の代から落印を押し、  
以後代々字形を少しずつ変えて使っている。

常慶の父、田中宗慶（千利休は小庵を後継ぎにし  
たので、長男宗慶に楽家を創立させ秀吉から、楽金  
印と天下一の称号をもらってやった。）も楽印を押し  
たことが近年判明した。

三代導入（1599～1656）は、[のんこう]の俗称で有  
名で、技巧では歴代中随一である。代表作に「のん  
こう」七種や[のんこう]加賀七種がある。以降14吉  
左衛門（現在）まで続く。

長次郎焼は、初代長次郎、二代長次郎、宗慶、宗  
味常慶の5名が製作しているが、誰がどれを作った  
のかを証明する資料はまったく無いから、長次郎、  
長次郎焼と称される作品は全部初代長次郎作として  
よいと思う。

以上「一菰二楽三唐津」磯野風船子著より抜粋

### ○二代長次郎茶碗

鑑定 丁丑水月（昭和12年6月）清光（平木清光）

常慶（じょうけい・1566～1635）作。楽家二代吉  
左衛門 常慶、宗慶の次男。寛永12年（1635）5  
月29日没 享年75歳。



父の宗慶と  
同様「天下一  
ちゃわんやき」  
と称された。  
本阿弥悦と親  
交があり自筆  
の「御ちゃわ  
ん屋」と書い  
た暖簾をもら  
った。常慶が

使った楽印は、徳川二代将軍秀忠から拝領したもの  
と考えられる。宗慶楽印と同様、中央が自になって  
いるが、行書風で、宗慶印よりひとまわり小さい。

以上、「長次郎楽家代々の略歴・印 磯野風船子著  
より要約抜粋

### ○導入茶入

鑑定 丁丑水月（昭和12年6月）清光（平木清光）

導入（どうにゅう・1599～1656）作。楽家三代導  
入、常慶の長男、号が導入・のんこう。

千宗旦か  
ら、しばしば  
注文を受けて  
製作して  
おり、また、  
光悦に可愛  
がられて、名  
人と称され  
た。



明暦2年  
（1656）2月23日没。享年58歳。印は大小の二印があ  
り、楽の中央は自になっている。自の左側の玄は「シ  
ム」となっている。「のんこう」の俗称は宗旦が、伊  
勢の神辺村の熊古（のんこ）茶屋で竹を切って花入  
れを作り「のんこう」という名をつけて導入へ贈っ  
たのでついた。

以上「長次郎」楽家代々の略歴・印 磯野風船子  
著より

## \* ゴルフコンペのご案内 \*

[中央地区]

平成20年春季ゴルフコンペを下記のとおり開催  
しますのでご案内します。

- ・期日：5月12日（月）10：00～ 4組
- ・場所：クリアビューCC（旧・大利根チサン）
- ・料金：13,800円（昼食・パーティ料理付）

なお、4月上旬までにゴルフ会の皆様に別途ご連絡  
いたしますので、ご協力をお願いいたします。

[幹事：沖本良平]

次回の発行は8月を予定しています。

次号は、親子孫三代による福岡県の氷爆にアタッ  
クを掲載予定します。

皆様からのご投稿・ご意見をお待ちしています。